

『看護学テキスト NiCE 小児看護学 I
小児看護学概論・小児看護技術(改訂第 4 版 第 1-2 刷)』
サポート情報

2023 年 5 月
株式会社 南江堂

『看護学テキスト NiCE 小児看護学 I 小児看護学概論・小児看護技術 改訂第 4 版』につきまして、小児の形態・機能的発達に関する執筆にあたり、項目によって参考とした文献が異なったため、本書の中で数値の記載にばらつきがございました。つきましては、以下の通り数値を統一いたします。

①頭囲

年齢	出生時	1 歳時	5 歳時	15 歳時
頭囲(cm)	32~34	44~47	49~52	53~54

上記の数値に基づき、以下の通り本文の記載を統一いたします。

- ・ p.68 の最終行~p.69 の上から 2 行目

現在の記載
出生時の頭囲は約 33cm で、胸囲よりも大きい。頭囲の発育は乳児期前半に著明で、生後 1 ヶ月過ぎから胸囲とほぼ等しくなり 1 歳で約 45cm となる。その後もほぼ胸囲と等しく、1 歳以降には胸囲が上回る。5 歳で約 50cm、15 歳で約 53cm になる。
統一後の記載
出生時の頭囲は 32~34cm で、胸囲よりも大きい。頭囲の発育は乳児期前半に著明で、1 歳で約 44~47cm となる。その後は緩やかに大きくなり、5 歳で 49~52cm、15 歳で 53~54cm になる。

- ・ p.121 「a. 身体的発育状態」の本文 6 行目

現在の記載
頭囲は、出生時には胸囲より大きいですが、1 歳頃胸囲とほぼ同じ 45~46 cm になり、1 歳以降には、胸囲が頭囲より大きくなる。
統一後の記載
頭囲は、出生時には胸囲より大きいですが、1 歳頃胸囲とほぼ同じ 44~47 cm になり、2 歳以降には、胸囲が頭囲より大きくなる。

・ p.321 の上から 8~9 行目

現在の記載
とくに乳児期の頭囲の増加が著しく、生下時では平均 33 cm、1 歳で約 45cm となる。幼児期以降は増加が緩慢となり、5 歳で約 50cm、思春期で 53~54 cm となる。
統一後の記載
とくに乳児期の頭囲の増加が著しく、生下時では 32~34cm、1 歳で 44~47cm となる。幼児期以降は増加が緩慢となり、5 歳で 49~52cm、思春期で 53~54 cm となる。

②胸囲

年齢	出生時	1 歳時
胸囲 (cm)	30~33cm	44~47cm

上記の数値に基づき、以下の通り本文の記載を統一いたします。

・ p.69 の上から 10 行目

現在の記載
出生時の胸囲は約 32cm で、生後 1 年で約 45cm と頭囲とほぼ等しい。
統一後の記載
出生時の胸囲は 30~33cm で頭囲よりも小さいが、生後 1 年で 44~47cm と頭囲とほぼ等しくなる。2 歳を過ぎると胸囲は頭囲より大きくなる。

・ p.325 の上から 3~4 行目

現在の記載
胸囲は出生時に約 32 cm で頭囲より若干小さいが、1 年で約 45~46cm とほぼ同等となる。
統一後の記載
胸囲は出生時に 30~33 cm で頭囲より若干小さいが、1 年で 44~47cm とほぼ同等となる。

③歯

生歯時期	乳歯の 生え揃い時期	永久歯の 生え始め時期	第2大臼歯の 生え揃い時期
年齢	2~3歳	6歳頃	14歳頃

上記の数値に基づき、以下の通り本文の記載を統一いたします。

・ p.133 の上から 7 行目

現在の記載
永久歯は <u>6~7</u> 歳頃から生え始め <u>11~14</u> 歳頃までに第2大臼歯が生え、合計28本になる。
統一後の記載
永久歯は <u>6</u> 歳頃から生え始め <u>14</u> 歳頃までに第2大臼歯が生え、合計28本になる。

・ p.442 の下から 11 行目

現在の記載
歯の発育は、生後6~8ヵ月頃から萌出し、 <u>2歳半~3</u> 歳で20本すべて生えそろう。
統一後の記載
歯の発育は、生後6~8ヵ月頃から萌出し、 <u>2~3</u> 歳で20本すべて生えそろう。

④水分代謝

水分代謝	新生児期	乳児期	幼児期	学童期
必要水分量 (mL/kg/日)	80~100	150	100	80
不感蒸泄量 (mL/kg/日)	30	50	40	30
尿量 (mL/kg/日)	20~70	90	50	40

上記の数値に基づき、以下の通り図表の記載を統一いたします。

・ p.244 の表VI-4-3

現在の記載
乳児の不感蒸泄量： <u>50~60</u>
乳児の尿量： <u>80~90</u>
学童の尿量： <u>50</u>
統一後の記載
乳児の不感蒸泄量： <u>50</u>
乳児の尿量： <u>90</u> ,
学童の尿量： <u>40</u>

⑤生理的体重減少

出生後の生理的体重減少について、出生時の体重に戻るまでの期間を「1週間程度」とします。これに伴い、以下の通り本文の記載を統一いたします。

・ p.107 「a. 身体的発育状態」の本文 6-7 行目

現在の記載
体重は、新生児期に生理的な体重減少により一過性の減少がみられるものの、生後 <u>7~10 日には</u> 出生時の体重に戻り、その後は順調に増加する。
統一後の記載
体重は、新生児期に生理的な体重減少により一過性の減少がみられるものの、生後 <u>1週間程度で</u> 出生時の体重に戻り、その後は順調に増加する。